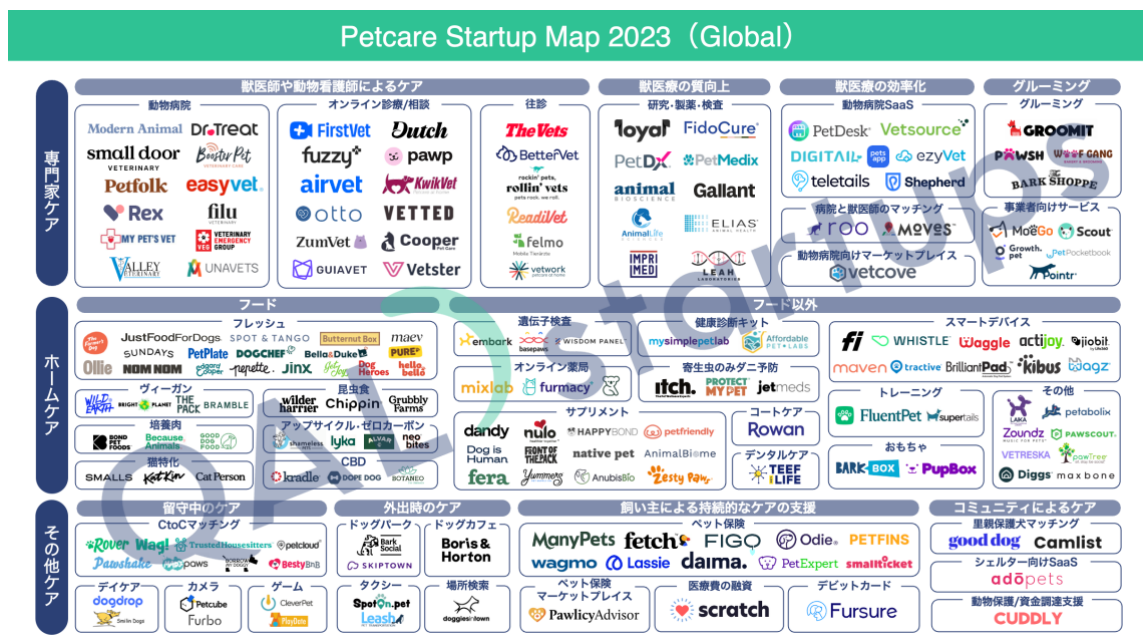


新規事業に役立つ「ペットケア スタートアップ カオスマップ 2023(グローバル版)」を公表
 ~北米や欧州などのペットケアスタートアップ厳選 50 社を紹介するレポートを発売~

2023 年 2 月 6 日、獣医療起点でのコンサルティング、および人とペットの生活の質を向上する新たなサービス、プロダクトの開発と事業化を行う株式会社 QAL startups(本社 東京都町田市、代表取締役社長 CEO 高松充)は「ペットケア スタートアップ カオスマップ 2023(グローバル版)」を発表し、その中から厳選 50 社を紹介したレポートを販売開始します。



■カオスマップの前提となるペットケアの定性的グローバルトレンド

近年のペットケアにおける大局的なグローバルトレンドは 3 つの P で表現できます。
 「Pet Humanization」「Personalization」「Premiumization」です。

1) Pet Humanization

まず挙げられるのが「Pet Humanization/ペットヒューマニゼーション」。ペットの人間化や家族化を表す言葉です。ペットを所有物と見なす考え方は時代遅れの価値観であり、家族の一員として愛情をもって接することが当たり前の社会になっています。「Pet Owner(所有者)」という表現も「Pet Parent(親)」に置き換わり、これまで人間向けにあった多彩な商品やサービスがペット向けに存在しています。動物福祉が活発な欧州では、フランス、ドイツ、スイス等にかけて、2022 年にスペインにおいても「ペットは Property(財産やモノ)ではなく Sentient Beings(感覚や意識を持つ人間と同じ生き物)である」旨の法律が施行されました。QAL

startups においても創業以来の想いは『動物と人間は、同じ家族。その暮らしに「新しい当たり前」を。』です。

2) Personalization

ペットを家族の一員として生活する中で生まれる考えが「Personalization/パーソナライゼーション」。ペットも人間と同様に個性を尊重しよう、人の健康状態が千差万別であるように、個々のペットの状態に寄り添ったペットケアがあって然るべきだという志向です。その結果、専門的な治療に限らず自宅で出来るホームケアにおいても、ペットの個性を理解するサービス(遺伝子検査、健康診断キット、ウェアラブルデバイス等)、そして、個別最適化された多種多様なペットケア商品(フード、サプリメント、トレーニング等)が提供されています。「ペットテック」という言葉が浸透しつつあるように実用化が進む AI をはじめ技術の進歩による貢献も大きいでしょう。

3) Premiumization

さらに、個性を大切にすると結果として高額な消費をいとわない「Premiumization/プレミアムゼーション」が根付きつつあります。近年の Human-Grade(人間でも食べられる安全品質)なプレミアムフードの人気の代表的事例と言えます。今後、ペット消費の中心が Sustainability に対する意識の高いミレニアル世代や Z 世代に移行することも消費の高級化に拍車をかけると考えられています。

その他に特筆すべきこととして、上述の大局的なトレンドの中で突如生じたパンデミックを背景としたペット数の急増によって、アメリカをはじめ獣医師の供給が不足している国においては、需給バランスがさらに悪化し獣医師の過酷な労働環境が社会問題化。それらを解決すべくテクノロジーや顧客体験を再構築した獣医療の改革(メンバーシップ制やオンライン診療/相談等)、併せて、動物病院やシェルター運営の効率化を目指すエンタープライズ向けサービス(各種 SaaS 等)の進化が見られます。また、世界的な物価高騰に対処すべく、ペット保険に並んで日常的な予防ケアをカバーするウェルネスプラン、さらにフィンテック企業による新たな金融サービスも注目を集めています。

■カオスマップ内の事業領域に関して

QAL startups は、動物病院での獣医師による治療や定期健診(専門家ケア)、自宅でできる積極的な予防ケア(ホームケア)、そして、それらを取り巻く社会全体による支援によってペットの健康寿命を増進させることができ、ペットと人間は同じ家族としてよりよく暮らしていくことができると考えています。以上の考えを背景にしてマップ内での事業領域を設けております。

■カオスマップ内の掲載企業に関して

今回のカオスマップでは、グローバルなペットケアのエコシステムの盛り上がりや現在のトレンドを幅広く知って頂きたいという思いから、プロダクトや資金調達の進捗を含む現在の経営状況に関する基準は設けず、上述の事業領域に対応して広範に特徴的な企業を掲載しています。なお「スタートアップ」と表現しておりますが、おおよそ2010年以降設立の企業を対象にしており、また、既に関取された企業や上場した企業を一部含んでおります。

(注意事項)

本マップに掲載している企業や商品サービスのロゴにつきまして、使用上問題がある場合には削除いたします。お手数ですが、以下の問い合わせ先までご連絡ください。

■レポート販売概要

- ・内容:カオスマップに掲載した各事業領域から特徴的な計50社を厳選し、商品やサービスや資金調達状況等を記載した400字程度のテキスト及び写真付きで各社1ページ(合計50ページ)で紹介。背景の弊社ロゴの無いカオスマップデータも付属。
- ・料金:220,000円(税込)
- ・オプション:レポートを口頭で補足説明するオンラインセッションや、特定の業種や企業を深掘りする追加リサーチも併せてご提供します。詳細は以下からお問合せください。
- ・問い合わせ先:レポート担当宛 e-mail: consulting@qalstartups.co.jp
- ・サンプルページ:企業紹介ページのサンプルは以下です。当サンプルは販売するレポートには含まれません。

llume

※当サンプルは販売するレポートには含まれません。

スマートデバイス



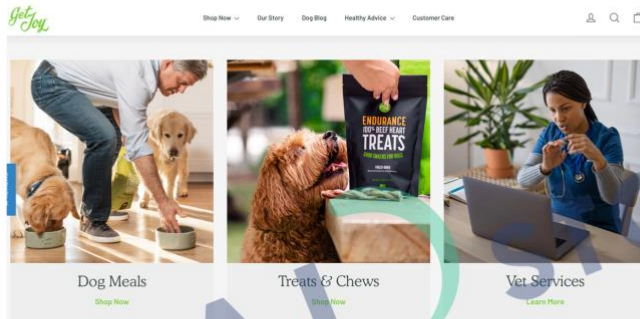
- ・会社名 : llume Kitchen Pty Ltd
- ・本拠地 : オーストラリア
- ・創業年 : 2020
- ・資金調達フェーズ : Pre-Seed
- ・調達合計額 USD : N/A

CES2023でも話題 テクノロジーと栄養学の統合を目指すヘルステック企業。

llumeはテクノロジーと栄養学を統合して愛犬の健康増進を目指すヘルステックスタートアップ。首輪型のアクティビティトラッカーが愛犬の行動量、消費カロリー、睡眠パターン、食習慣等を記録してスマートボウルに情報を提供。AIにより意思決定された理想的な食事量をスマートボウルが可視化(提供するフード自体もllumeが開発し販売。料金は体型によるが1日\$6.8程度)。収集したデータを解読する独自のアルゴリズムを搭載したハブはWi-Fiで接続され、トラッカーとボウルから収集した独自のインサイトをアプリに常に供給し、飼い主は収集した運動や健康のデータをアプリを通じて確認できる。CEOのCraigは\$700Mでプロバイオティクス関連事業をExitした後にllumeを創業というストーリーを持つ栄養学に知見のある連続起業家。llumeは現在オーストラリアで実証実験を継続中で間もなく正式ローンチ予定。デバイスの価格は未定。今後の展開に要注目。

<https://www.wearllume.com/>
<https://www.crunchbase.com/organization/llume>
<https://good-design.org/projects/llume-dog-health-wellbeing-suite/>

QALstartups



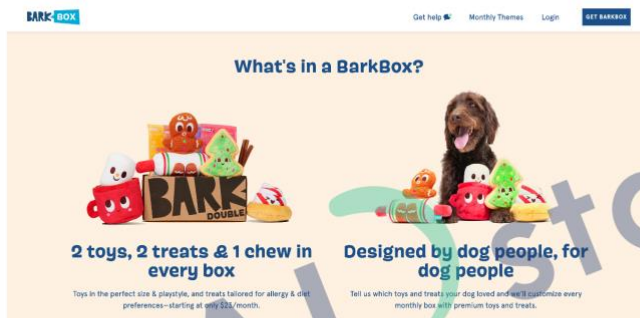
- 会社名 : Get Joy and Co.
- 本拠地 : アメリカ
- 創業年 : 2019
- 資金調達フェーズ : Seed
- 調達合計額 USD : 4M

獣医師とのオンライン相談やメタバースも手がけるD2Cフレッシュフードブランド。

Facebookの元ExecutiveであるTomが創業したGet Joy。犬にとっての「People, Plates, & Places」の3つを大切に考えるGet Joyの主力商品は良質な栄養の基盤となるフレッシュフード（「Plates」に該当）。ターキー、ビーフ、チキン、ラムの4種類で構成される。料金はいずれも1日当たり\$6.9。併せてフリーズドライのフードとトリーツも展開。なお定期購入者は無料でいつでも獣医師とのライブチャットやビデオ電話を行える。将来的には誰でも利用できる年間サブスクリプション型サービスとして提供される予定。さらに「Places」の施策としてメタバース初のドッグパーク「Get Joy Dog Zone」をDecentralandの仮想世界内に開発。長期的に現実とデジタル空間を超越したコミュニティとライフスタイルの構築を目指す。ペットの健康には「People」に該当する飼い主の教育も重要だと考えておりウェブには専門家によるペットケアに関する動画の教育コンテンツが豊富に並び。

<https://getjoyfood.com/>
<https://www.crunchbase.com/organization/get-joy-food>
<https://getjoyfood.com/blogs/paw-prints-blog/get-joy-dog-zone-is-a-new-age-of-hybrid-virtual-iri-pet-destination>

QAL startups



- 会社名 : Bark, Inc.
- 本拠地 : アメリカ
- 創業年 : 2012
- 資金調達フェーズ : NYSEに上場済
- 調達合計額 USD : -

D2CサブスクBOXの先駆者 個別最適化した犬用おもちゃやトリーツを毎月発送。

BarkBoxは毎月異なるテーマに沿って愛犬用にカスタマイズされたおもちゃ2個とトリーツ2個とガム1個が専用BOXで届くサブスクサービス。料金は毎月23ドルから。2012年にスタートアップスタジオPrehypeで誕生し、徹底的に顧客の声に寄り添ったプロダクト改善とSNSマーケティングの成功等を主要因として順調に売上成長を遂げる。2020年にSPACを通じてニューヨーク証券取引所に上場。個別最適化されたサブスクリプション商品やD2Cブランドの先駆的存在。現在はBarkブランドを、ガム（Super Chewer）、デンタルケア（Bark Bright）やフード（Bark Food）等に拡張。上場初年度FY21は各商品の売上合計は約\$500M。全商品の主要KPIの一部：配送数約15M、平均月間離脱率7.0%、CAC:\$53.4、LTV/CAC:4.7x。営業赤字継続の段階。FEDによる金利上昇等のマクロ要因も大きい2022年に株価は上場直後の高値から90%以上下落。業績と共にこれからが正念場。

<https://www.barkbox.com/>
<https://www.crunchbase.com/organization/barkbox>
<https://investors.bark.co/overview/default.aspx>

QAL startups

（注意事項）

- 本レポートの利用は購入企業様の社内（個人様の場合は個人）での閲覧に限り、第三者へ公開することを禁じます。
- 本レポートは 2022 年 12 月時点の公開情報に基づいて弊社が作成し、弊社による認識を含んだ資料です。
- 本レポートは信頼できると判断した情報を基に作成していますが、情報の正確性を完全に保証するものではありません。

・本レポートは今後の時間経過とともに内容の陳腐化が予測されますが、情報を更新する義務を負うものではありません。

・本レポート掲載情報に起因するいかなる損害も責任を負いません。

■会社概要

- ・商号 : 株式会社 QAL startups
- ・ウェブ: <https://qalstartups.co.jp/>
- ・設立 : 2020 年 7 月
- ・資本金: 5,000 万円
- ・所在地: 東京都町田市中町 1-16-3
- ・代表 : 代表取締役社長 CEO 高松充
代表取締役共同 CEO 生田目康道
- ・事業 : 獣医療起点でのペットビジネス開発に特化したスタートアップ・スタジオ
 - パートナー企業との共同事業開発
 - 自社単独でのサービス、製品の開発
 - リサーチ、コンサルティング、事業開発支援

■本レポート購入に関する問い合わせ先

株式会社 QAL startups レポート担当宛

〒194-0021 東京都町田市中町 1-16-3

TEL: 042-860-7937

e-mail: consulting@qalstartups.co.jp

■報道関係の皆さまからの問い合わせ先

株式会社 QAL startups 広報担当宛

〒194-0021 東京都町田市中町 1-16-3

TEL: 042-860-7937

e-mail: pr@qalstartups.co.jp